

# 雪害に対する農作物の技術対策について

## 【共通】

- 積雪の多い地域では、作業時の安全確保について、特に注意する。
- 市町村や農業団体における技術対策等の連絡体制や被害報告体制を確認する。

## 【水稲】

### (1) 育苗ハウスの融雪対策

- ハウス周辺に雪が残っている場合は、除排雪や雪割り、融雪剤の散布により融雪を促進する。
- 融雪が進むにつれてパイプに歪みを生じることがあるので、ハウス周囲の除排雪に努める。また、積雪等によりパイプが破損した場合は、融雪後速やかに補修する。

### (2) 育苗ハウスが不足する場合の対策

- ハウスの復旧が間に合わず、育苗出来ない場合は、地域の農家やJA等との広域的な連携により、苗の入手先を確保する。
- ハウスの面積が不足する場合は、所有する機械や施設装備に応じて、直播栽培、播種量を増やした省力育苗（高密度播種苗栽培等）の拡大や導入を検討する。

### (3) 育苗作業が遅れる場合の対策

- 播種作業が遅れる場合は、浸種等の作業を計画的に遅らせる。また、田植え作業の遅れも見込まれるため、田植え予定日から逆算して種子予措や播種日を調整する。
- 播種から田植えまでの日数が短くなる場合は、加温出芽（育苗器の使用）による生育促進により育苗日数を短縮する。

### (4) 田植えが遅延する場合の対策

- 田植えが大幅に遅延すると茎数の確保が困難になるため、田植えの遅延が想定される場合は、70株/坪以上を基本とし、あらかじめ苗を多めに準備して密植に備える。  
(あきたこまちの田植え晩限の目安は、中苗：6月5日、稚苗：5月31日)

## 【野菜、花き】

### (1) 農業用施設の雪害対策

- ハウスの雪下ろしは、屋根及び側面を中心にできるだけ早く行い、特に着雪しやすい屋根の北側または風下側に偏って残らないようにする。
- ハウス側面に堆積した雪（特にハウスとハウスの間）は、側圧がかかるので、速やかに除雪する。
- 被覆していないハウスもジョイント部分等への着雪により倒壊する恐れがあるので、適宜、雪を落とす。
- 融雪が進むにつれてパイプに歪みが生じることがあるので、ハウス周囲の除排雪に努める。また、パイプが破損している場合は、融雪後速やかに補修・交換する。

### (2) 育苗管理

- 育苗ハウスが自宅から離れている場合は、ハウスの状況を早期に把握する。
- 育苗が不可能である場合や苗の不足が予想される場合は、JAやメーカー等に相談し、次作の苗の早期確保に努める。
- ある程度融雪が進んだ時点でハウスの損傷状況を確認し、ビニール等の補修を行なうなど、ハウスの機密性を高め、適期の育苗に対応できるようにする。
- 融雪による停滞水の影響が懸念される場合は、ハウスの周囲等に溝を掘り、速やかに排水する。
- ハウスの隙間などから冷気が流入しないように隙間をふさぐとともに、必要に応じて二重カーテン等を設置し、苗に直接冷気が当たらないようにする。
- ハウスやほ場の準備は計画的に進め、苗が老化しないよう定植作業を行う。
- 定植の遅れが見込まれる場合は、苗のずらし作業を早めに行い徒長を抑えとともに、育苗後半に液肥を施用して老化を防ぐ。セル育苗のものは、必要に応じてポット上げを行うなどして対応する。

### (3) ほ場管理

- 作付け予定地に融雪剤を散布し、作付けが計画どおり行われるよう、融雪の促進を図る。
- アスパラガスやリンドウ等の越冬品目については、除排雪の際に株を傷つけないよう注意する。
- 融雪水により湿害が発生しないよう、ハウスやほ場の周囲に明きょ等を施工し、排水対策を徹底する。
- 今後育苗を開始する作目は、消雪予想日から推定される定植日を考慮して、は種時期を決定する。
- スイカ、メロン等の秋マルチほ場は、融雪後のトンネル設置を早めに行い、地温の上昇を促進させる。定植は地温が十分に確保されたことを確認してから行い、活着を促進する。

## 【果樹】

### (1) 樹体や施設の被害防止対策

- 樹上の冠雪の除去、枝の掘り上げを行って枝折れを防止し、枝下の雪を踏み固める。
- ぶどうは、棚上の雪の除去と排雪を行い、棚の倒壊を防止する。
- おうとう等の施設栽培では、除排雪によりハウスのフレーム等の支持に努める。
- 晴れの日が続く日を選び、融雪促進剤等を散布し、消雪の促進と沈降力による枝折れ被害の軽減に努める。
- 積雪のある樹園地は野ネズミの食害を受けやすいので、樹の周りの雪踏み等をこまめに行い、樹の食害を防止する。

### (2) 事後対策

- 大枝が裂開した場合は、カスガイ・ボルト・支柱等で修復し、癒合・再生の促進を図る。枝折れ被害を受けた部分や剪定した切り口には塗布剤を処理し、病害予防に努める。
- 被害が著しく、生産性が低い園地では改植を検討する。
- 破損したぶどう棚・おうとう雨よけハウス等の施設は早急に補修・補強する。